

学長の業績評価結果(業務執行状況の確認)

日付	令和5年3月30日	対象年度	令和4年度
評価対象者	岡本 幾子		

1. 評価

<input checked="" type="checkbox"/> 順調である。 <input type="checkbox"/> おおむね順調である。 <input type="checkbox"/> 改善の努力が必要である。
--

2. 確認事項とそれに対する委員からのコメント

<p>●評価項目別評価</p> <p>I. 第4期中期目標・中期計画期間の大阪教育大学が必要とする取組み</p> <p>1. 組織改革</p> <p>時代の変化に対応できる「実践力のある教員」を育成することは、本学の重要なミッションである。そのために強いリーダーシップを発揮し、教員養成課程の改組を進め、同時に大阪府と大阪市の各教育委員会に常に理解を求め、連携を深めていることは評価に値する。</p> <p>2. 先導的な教職課程のモデル開発</p> <p>「フラッグシップ大学構想」という先導的な教職課程のモデル開発が、学長就任1年という短期間の中で、非常に充実した内容で順調に進行しており、今後どのような取組みが必要であるかの見通しも明確となっている。ただし、先導的なプロジェクトを推進するにあたり、既存のシステムの長所を残し、生かすことにも配慮いただきたい。</p> <p>3. ガバナンス改革</p> <p>女性教員比率が国立大学の上位であるということは非常に喜ばしく、今後も学内での意識改革も並行して進めながら、さらに比率を伸ばして行ってほしい。</p> <p>4. 大阪教育大学附属学校改革</p> <p>将来的には附属学校の校長職を専任化し、校長が現場で権限や責任を持って仕事を遂行するというのが理想である。しかし、現在も附属学校統括機構や支援チームを配置し、学校運営を支える仕組みを設けていることは、大学との連携があるからこそできる、よい取り組みである。また、今後も教育委員会との交流人事の継続を望むところである。</p>

5. 活発化するグローバル化への対応

附属学校が「WWL コンソーシアム構築支援事業」の中で、「高校生国際会議」をコロナ禍という逆境の中、様々な工夫をしながら昨年度「オンライン」で実施し、今年度「対面」で実現させたのは素晴らしいことである。ぜひ同事業を1年延長し、さらに発展させてほしい。

一方、大学でも「教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」として「英語教育をイノベーションするスーパー・ティーチャー養成モデルの構築」が2年連続で採択され、英語教育専攻の学生をカナダ・ビクトリア大学でのTEFL研修に派遣できたことも大きな成果である。

II. その他, 特記事項

学長が取り組んでいる3つの構想「教員養成フラッグシップ大学」「オープン・エデュケーション・プラットフォーム」および「博士課程設置」は、本学の行く末を左右する大きなプロジェクトである。

このように学長は現状と今後のなすべきことをしっかり把握しつつ、大学改革に意欲的に取り組んでいる。また、プロジェクト実行に際し、若い人材を積極的に活用し、対話によるコミュニケーションを重視している。今後ともこの流れを大切に「コンプライアンス」「ガバナンス」そして「危機管理」を疎かにせず、学長独自のカラーを出しつつ、強いリーダーシップを発揮してほしい。

●総評

対象期間における学長の業務執行状況の確認を、「学長ヒアリング」により実施した。その結果、学長選考時の所信表明書に掲げた計画(上記Iの1~5)を着実に実施しているとともに、上記「II. その他, 特記事項」に掲げた項目についても順調に実績をあげたと認められた。よって、評価を最上位の「順調である」と評価した。